

JENESYS 日本・インドネシア平和構築交流（大学生招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的】インドネシアの学生らが日本の伝統文化や歴史、宗教観に関する視察や意見交換を通して対日理解の促進を図ることを主目的として実施しました。

【参加者】イスラム団体団員及び国立イスラム大学学生 計 9 名

【訪問地】

- プレプログラム（オンライン事前学習）：千葉県 9 名
- 招へいプログラム：東京都 9 名、長崎県 9 名

【日程】

このプログラムは、以下のプログラムと一部合同で実施しました。

- ・ JENESYS2023 日本・インドネシア高校生等交流 ～日本の文化・技術体験～（招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア若手ジャーナリスト交流（招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア外交官・地方行政官交流 II（招へい）

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1 月 15 日（月曜日） 【出発前オリエンテーション】

挨拶：在インドネシア日本国大使館 二等書記官 石田 智彦 氏

【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「日本理解講義」「ホームビジット体験」「広島ピースツアー」「日本語」「日本 ASEAN50 年の歩み」「日本と国連」

■ 招へいプログラム：

1 月 22 日（月曜日） 成田国際空港より入国

1 月 23 日（火曜日） 【オリエンテーション】

【表敬訪問】外務省 南部アジア部 南東アジア第二課 主査
横山 大樹 氏

1 月 24 日（水曜日） 【テーマ関連講義】「日本におけるイスラム教」

早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授 見市 建 氏

【視察】明治神宮・原宿

【テーマ関連視察】東京ジャーミイ・ディヤナーナト トルコ文化センター

1 月 25 日（木曜日） 東京都から長崎県へ移動

【表敬訪問】長崎県庁 文化観光国際部 国際課 課長 坂口 育裕 氏

【講義】「長崎県概要講義」

長崎県庁 文化観光国際部 国際課 国際交流担当 主事 野崎 久美子 氏

1月26日（金曜日）

【視察・講話】長崎原爆資料館・平和公園、被爆体験講話

【視察】出島

【ホストファミリー対面式】諫早市

1月27日（土曜日）

【ホームステイ】

1月28日（日曜日）

【ホームステイ】日本文化体験含む

【ホストファミリー歓送会】

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

1月29日（月曜日）

長崎県から東京都へ移動

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1月30日（火曜日）

成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
1月15日【出発前オリエンテーション】	1月15日【日本理解講義】「日本の魅力」

招へいプログラム

	
1月23日【オリエンテーション】	1月23日【表敬訪問】外務省 南部アジア部 南東アジア第二課 主査 横山 大樹 氏



1月24日【テーマ関連講義】
「日本におけるイスラム教」



1月24日【視察】明治神宮で絵馬を書いている様子



1月24日【テーマ関連視察】東京ジャーミイ・
ディヤナト トルコ文化センター



1月25日【表敬訪問】長崎県庁



1月25日【視察・講話】
長崎原爆資料館・平和公園、被爆体験講話



1月26日【ホストファミリー対面式】諫早市



1月29日【報告会】



1月29日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人

視察で訪れた場所はどこも非常に興味深く、素晴らしいものでした。私にとって最も印象的だった場所は、長崎原爆資料館・平和公園の訪問でした。近代世界史における最大の悲劇のひとつである長崎の現場を訪れることは、過去、そして現在も起きている戦争や紛争について理解を深める上で重要な経験になりました。今回の訪問で、世界平和は我々が全力を尽くして実現しなければならないという信念が強まりました。また、出島の訪問は、16世紀末から17世紀初頭にかけてインドネシアにやってきた東インド会社を含むヨーロッパの貿易遠征隊の中継地として、日本がいかに国家間の貿易の一端を担うようになったかを知的体験として学ぶことができました。最後に、東京ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センターの訪問では、日本におけるイスラム教の発展についての経験と知識を得ることができました。

◆ 大学生

私が視察に訪れた場所は、技術や科学の面で非常に先進的で、ほぼ全ての場所で先進的な技術が活用されていました。文化の面でも、色濃く代々受け継がれている社会文化があり、規律を重んじながらも、相互を尊重する気持ちの強さが日本を訪れる外国人に温かさを感じさせます。特に清潔さという点では、自分が歩いて訪れた場所のほとんどにゴミが落ちておらず、国民の意識が非常に高いと感じられました。（歴史的）建造物を再建した施設を視察した時も、外観から内部まで非常に頑丈に作られていると思いました。開発と経済面での発展についても、若い世代から年上の世代まで平等に恩恵を受けているようでした。

◆ 高校生

最も良かった点は、長崎で被爆された方から直接お話を聞いたことです。また、長崎の原爆資料館を訪問し、原爆が落ちた時に何が起きたかを想像できました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

難しい言葉は翻訳アプリを使い、アプリを通じての会話が多かった彼が「ココロノトモ…」と呟いてくれたのが印象に残りました。時間に対して日本とは少し認識の違いがありましたが、いつもゆったりとしていて、ニコニコしている姿に癒やされました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



2024年1月27日 (Instagram)
 1945年に長崎で起きた原爆の悲劇を、被爆者の一人からお聞きしました。彼はその時まだ6歳の小学一年生で、現在は85歳です。
 実は、翌日は彼の誕生日でした。私はランブ州の伝統織物タピスを記念としてお渡しすることができました。インドネシアの文化を他の国の人に紹介することは幸せで誇り高いことでした。



2024年1月27日 (Instagram)
 4日目、長崎の原爆被爆者の一人のもとを我々は訪れました。彼は原爆の悲劇からどのように復興したかまで語ってくれました。講話の後、我々は急いで原爆資料館へ向かい、長崎の原爆の悲劇で残された物品を見学しました。
 その後、出島に向かいました。出島は、当時オランダ人をはじめとした外国人の居留地となっていました。
 出島視察の後は、日本の人々とより交流を深めるため、それぞれに分かれて諫早市の家庭でホームステイをするので、迎えに来てもらいました。



2024年1月22日 (rri.co.id HP)
 若者の招へい、インドネシアとの関係強化を期待
 (後略)



2024年1月27日 (在インドネシア日本国大使館 Facebook)
 1月22日、在インドネシア大使館において、JENESYSで訪日する9名のイスラム社会団体

	<p>の青年を招き、壮行会を実施しました。永井臨時代理大使は、この訪日プログラムが様々な分野における多角的な学びに寄与し、青少年間の信頼を深め、将来のさらなる友好協力の基礎の構築に寄与することに期待すると述べました。今回の訪日プログラムがご参加者の皆様にとって実り多いものになりますように。</p>
--	---

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

訪問地：東京都、長崎県 全2グループが発表

	
<p>【訪日中の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共空間でも身体障がい者に優しい歩道などが整備されていました。 ● 日常生活を支える環境に優しい先端技術が見受けられました。 ● 農業分野における持続的な取り組みがなされていました。 ● 長崎での被爆者講話では、原爆からの復興と政府による原爆被害を防ぐための取り組みが明らかにされました。 ● 長崎でのホームステイでは、日本の文化を学び、お互いの文化や情報を交換しました。 <p>【平和構築の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害（原爆）に対する意識と復興の力を学びました。 ● 若い世代が世界平和を訴える役割を担うことの重要性を学びました。 <p>【アクション・プラン】</p> <p>それぞれの所属先（学校、大学、イスラム組織、社会団体）において、セミナー、ワークショップ</p>	<p>【訪日中の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本人の健康的な生活習慣（魚、野菜、煮物、無糖のお茶の摂取、歩行・自転車移動）について知ることができました。 ● 規律の正しさ、時間厳守、交通ルールを守るという点が見られました。 ● 公共施設が素晴らしく、技術面だけでなく、身障がい者や環境に優しい造り、ゴミの分別などもなされていました。 ● 手助けを積極的にしてくれ、質問にもできる限り答えようとしてくれる献身的な姿勢を学びました。 ● 先端技術に支えられた生活が普及しており、トイレというプライベート空間でさえ先進的でした。 <p>【平和構築の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長崎原爆資料館では視覚的、情動的に優れた運営がされており、悲劇の歴史や平和へのメッセージがはっきりと伝わりました。 ● 他の文化に対してオープンな日本人の姿勢

<p>プ、情報共有、シェアリングセミナーを3ヶ月以内に行います。</p>	<p>を学びました。ホームステイ中でもインドネシアの文化に興味を持って耳を傾け、他の文化を尊重する姿勢で受け入れてくれました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の復興の力（頻発する自然災害や原爆を含む戦争からの復興）が見られました。 ● 伝統文化と近代化が共生する社会を学びました。現代的な生活が非常に進んでいる中で、伝統文化を大切にし、日常にあるものとして生活していました。 ● イスラム教を含めた多様な宗教が日本で息づき発展していました。東京ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センターは素晴らしい場所でした。日本にいる間、差別的な対応を受けたことはなく、イスラムに対する恐怖心といったものも、ほとんど見聞きすることがありませんでした。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンラインメディア（NU オンライン、IB タイムズ）とソーシャルメディア（Instagram、Facebook）で、一般市民及び所属組織メンバーに向けて情報拡散を行います。 ● それぞれのコミュニティにおける情報共有活動を行います。具体的には大学講義でのプレゼンテーション、大学内若手平和活動家向けのセミナー、日本の大学教授を招いたオンライン講義、マドラサ・イステイクル学校所属学生を対象にした活動等です。
--------------------------------------	--

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）